



自治会事務局 (自治会館)
TEL. 7132-1925
FAX. 7132-1965

柏ビレジ・ニュース

柏ビレジ自治会発行



2007年12月21日

いよいよ101号のスタートです

本号から101号です。新しい新しい気持ちでビレジ・ニュースを始めます。本号ではスポーツの季節、芸術の季節にふさわしい話

題を中心に記事を選んでみました。まずはスポーツです。「田中地区市民運動会」グラウンドゴルフ大会です。さらに「文化月間」に

出版して頂いた皆さんに寄稿して頂きました。また、柏ビレジを中心に活動されている団体の皆さんにも原稿をお願いしました。

田中地区市民運動会参加奮闘記

10月7日さわやかな秋晴れの中「田中地区市民運動会」が開かれました。当日をむかえるまでは、不安な日々を過ごしましたが、多くの方々にご協力を頂き、大きなケガもなく無事に行事を終える事が出来ました。子供達も数日前から長縄跳びや応援の練習に励み、本番では最高の笑顔で力いっぱい頑張りました！とても元気が良くなりました！とても暖かい気持ちにさせてくれました♪子供会役員の方々

も大変な労力を必要とした事だと思えます。そして参加者の皆様も会場では声を掛け合い、お互いを誘い合いながら競技に出場して下さいました。役員の方々も朝早くからの準備でお疲れの中、選手の足りないところを率先して出場して頂き、その上お楽しみの焼そばにフランクフルト、かき氷と大変忙しく体力的にもクタクタになられた事と思います。お疲れ様でした。で、成績はというと…田中っ子

賞！応援では委員長賞とまです！(笑)。そうです。参加する事に意義があるのです！S.M.A.P.シアにビレジ娘！チームワークはNO.1だったと思います。来年こそは優勝です！ね！最後に、役員ならびに子供会の方々、参加者の皆様に多くのご協力を頂き感謝の気持ちでいっぱい！です！ありがとうございます！
柏ビレジ自治会
事業部 古平いつ子



第4回グラウンドゴルフ大会開催

去る10月28日(日)、前日の雨でグラウンド状態が心配されましたが、台風一過の秋晴れの下、花野井小学校校庭で第4回グラウンドゴルフ大会が盛大に開催されました。

今回は子ども会からご家族での積極的参加をいただき、小学3年生から86歳までの60名(内子供24名)の皆さんが支部単位で老若男女・家族でチームを組み、

ハンディキャップなしでの団体戦、個人戦が争われました。集合時間の9時には肌寒かった気温もぐんぐん上がり、競技でもOBやホールインワンなど一打ごとに悲鳴や笑い声があがる熱い戦いが繰り広げられました。競技終了後は全員参加でニアピン競争を楽しみ、大会の目的である地域住民の親睦が図られたと思います。

競技結果は次のとおりで、入賞者にはメダルと副賞が贈られました。
▽団体の部
第1支部・第2支部
連合チーム

▽個人の部
総合優勝 鈴木菜摘さん
総合2位 瀬尾迪郎さん
総合3位 社本多賀男さん

▽ジュニアの部
ジュニア優勝 黒澤 匠さん
ジュニア2位 長谷川允優さん
ジュニア3位 黒澤 樹さん

子供の田中地区市民運動会

まだまだ残暑が続く中、10月7日の運動会に向けて、夏祭り終了と同時に運動会の準備を開始しました。自治会実行委員の方々の打ち合わせ、参加賞等の買い出し、弁当発注、本番を迎える迄には色々な準備があり、役員になって知った事が多かったのです。

子供会としては、長縄とび、応援合戦に出場する準備を中心に協力させて頂きました。

募集の甲斐があり、多くの子供達が応募してくれました。総勢46名、長縄とびの練習を行いました。応援練習は土曜日二回。長縄練習は前日土曜日一回と、少ない時間の中、子供達は練習に取り組みました。

後、本番を待つのみ。運動会当日は、気持ちの良い晴天になり、子供達は競技に、練習に、そして自治会が用意して下さった食べ物(かき氷、やきそば、フランクフルト)に大忙し。私もフランクフルトを頂きましたが、とても美味しかったです。

いよいよ本番。応援合戦は、大青田町会と曲目がかぶるハプニングがありました。練習よりも大きな声と踊を披露してくれました。

長縄とびは、練習の成果を発揮できなかったことが悔やまれます。しかし、縄を回す度にほこりが舞う悪条件の中、良く頑張ってくれました。

私は、結果よりも、子供

最後に、校庭を開放してくださった花野井小学校、用具を貸していただいた柏市中央体育館、事前準備から始まって当日のコース設定、ニアピンの距離計測などにご協力いただいた新樹会の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。
福祉部副部長 藤野裕光

子供会 岩城 照美



第22回文化祭特集

文化祭月間を了えて

今年の文化祭のテーマは「わ、融和の和、交流の輪・コミュニケーションの話」を掲げ、11月2日から月間という長い幕を開けた。自治会に関わる諸般の事情、そして何よりコミュニケーションはなみずきの認知という目的でこれまでの形態が大幅に変更された初めての試みであった。木曜日を搬入・搬出日とし、週単位で作品を入れ替えた。多くの方々の参加を得、きつと皆様の心を潤したのではないかと考えている。

「はなみずき」に来場される人達の第一声は「わーきれい!!」であった。初めての来訪者がとても多く、出展を契機として友達連れで思い切つて「はなみずき」のドアを開けたという人、買い物、テニスなどの途中でわざわざ出かけなくても気軽に立ち寄れたこと、これまでの慌しい短期文化祭と違って、出展者も鑑賞する人も飲み物を手にゆつたりできたというご感想をいただいた。小規模とはいえず「はなみずき」を会場としたメリットだと思う。過日発行したランドゴルフの副賞の喫茶券(福祉部発行)を利用してくれた小学生もいて嬉しい思いをした。点訳絵本、大人の方の素晴らしい力作、ほほ笑ましい子供の俳句、綺麗な絵皿、花野井小・田中小の子供たちの伸び伸びとした力強い絵、そして、中学生の発想豊かな作品と多彩な展示となった。また後半のバラシユート、クネクネ蛙、クイリングの手づくり・挑戦コーナーも大盛況であった。子供から高齢の大先輩(とても高齢者と一口で片付けられない素晴らしい生き方をされている大先輩に教わることは多かった)との交流の中で、優しさ、思いやりを目的にしていた。楽しい笑い声は終日響き、クイリングに魅せられた人々の背中を暖めたのは小春日であり、正に融和の「和」平和に感謝する思いであった。「はなみずき」を訪れた方は延べ900人、様変わりした文化祭であったが、まだまだ試行錯誤の段階である。よりよい文化交流の場になるよう今回の反省点を次回に生かしていきたい。役員による俄かウエイトレスさんご苦勞様でした。長い間開放してくださった「はなみずき」とボランティアの皆様ありがとうございました。今回の交流の輪が「はなみずき」を通してますます広がってゆくことを祈ります。文化祭実行委員・福祉部長 永谷智寿子

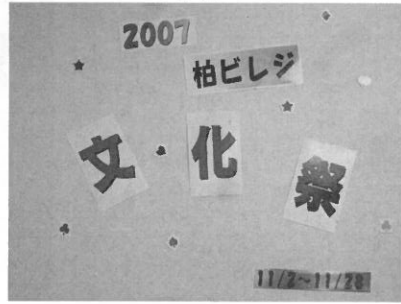
今年の文化祭は、これまでと趣きを変え、「はなみずき」を会場に、ほぼ一ヶ月の長期間行われました。そこで主催者の自治会、会場提供の「はなみずき」、そして作品を出展して下さった皆さんから寄稿して頂きました。

「はなみずき」での文化月間

お陰様で、コミュニケーションルーム「はなみずき」での今年度文化祭が無事終了しました。今回の新たな試みとしては、一ヶ月という長い期間を設定し、一週間毎で展示テーマを区切ったことです。これにより、これまでの二日間のみ文化祭として、お陰様で、コミュニケーションルーム「はなみずき」での今年度文化祭が無事終了しました。

異なり、お客様がよりゆつくりと作品を鑑賞できたり、出展者との歓談の場を持てたりといったメリットが生まれました。「はなみずき」が目指してきた地域住民の交流の場を、このような形で提供できたことを大変嬉しく思います。

日曜・祝日に開店するの



出展者リスト

氏名	作品の種類
相澤 忠郎 盆栽会代表者	盆栽
梶谷 知子	和紙ちぎり絵
小泉 まさみ	和紙ちぎり絵
中林 藤子 和紙ちぎり絵サークル代表者	和紙ちぎり絵
桧垣 篤夫	子供俳句
中村 のりこ	子供達の作品 絵画 手芸 (本人)ポーセリンアート
服部 和子	水墨画 色紙額
目黒 和子	書道
河野 玲子	点訳絵本
社本 多賀男	絵画
中村 美智子	手芸
本田 富子	油絵
山川 務	水墨画
真部 薫	押し花絵
田中中学校	工作
田中小学校	絵画
花野井小学校	絵画
小倉 眞宣 小倉 伸子 小倉 英司	ペーパークラフト クイリング 及びオブジェ折り紙

手作り体験コーナー主催者表

氏名	作品の種類
中村 のりこ	パラシュート
中村 美智子	クネクネかえる
小倉 眞宣	ペーパークラフト



鈴木 真澄

は初めてのことで、有志ボランティアの方々がお休みを返上して厨房を担当して下さいました。期間中、どの位のお客様がみえるのか予想がつかず、戸惑う場面もありましたが、展示品の入れ替えや、ボランティアと自治会役員の連携がスムーズにいった背景には、文化祭実行委員の方々の多大なご尽力があります。反面、反省点として、一部の人達に負担が掛かり過ぎたこと等が挙げられます。これらの点については、自治会役員とはなみずき役員との間で十分に話し合い、来年度以降の文化祭に活かしてゆきたいと思っています。

冒頭に文化祭の作品展示の際には委員長の小岩井さんをはじめボランティアの方々に大変お世話になりました。折にボランティアの皆さんの勧めもありここで展覧会をやろうということになり十一月なかほど広報の平野さんから突然、水墨画について一文を寄せるように、と依頼をうけました。

水墨と私



ものです。今年の春偶々水墨の仲間と、はなみずきでお茶を飲む機会がありその折にボランティアの皆さんの勧めもありここで展覧会をやろうということになり十一月なかほど広報の平野さんから突然、水墨画について一文を寄せるように、と依頼をうけました。今年のビレジの文化祭の展示は、はなみずきで行うとその時に聞きました。秋に入つて文化祭出品の回覧が回つて来ましたが美に対する目の肥えた方がたの多いこの町の文化祭に出品することには中々勇気がいり思ひ切れませんでした。が、またボランティアの方々に背中を押され出品することにしたわけです。それが終わつてボランティアの方たちに、「好評でしたよ」なんて言われたその気になつて、ああよかった、なんて素直に喜んでおります。

文化祭期間中には、「はなみずき」に入つたのは初めて。という方も多数いらして、これを機に、「はなみずき」がより多くの皆様に親しまれる存在になるよう期待しております。

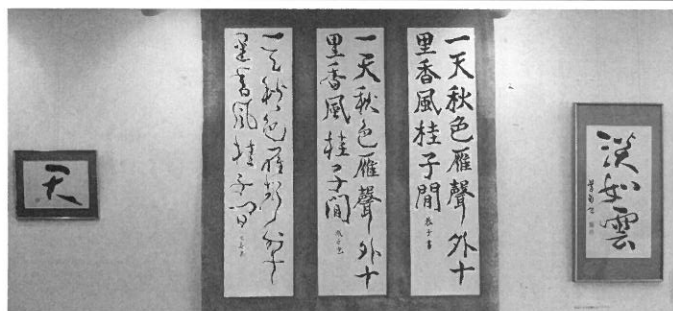


書も勿論そうですが水墨も書き直しがきかず白い紙に筆を下ろす時にはかなり緊張します。日ごろゆるみ放しの生活をしている私にとつてはこの緊張する時間

文化祭 はなみずきに参加して

毎年 私共の会の唯一の発表の場として 文化祭に参加させていただいておりました。体育館での2日間 はこちらと 通りすがりに見ていただくくらいでちょうど良い程度の作品でしたが、私達なりに緊張する思いのこもる場でした。

このたび はなみずきでは1週間 それも 身近にお茶を いただきながらということに 少し気恥ずかしくはありましたが、名前を出さないなら 1年の成果を友達には見てほしい気持ちもありました。考えた末に 仮名を前半に漢字を後半にと2回に分けて展示ということにしました。はなみずきにお越しの方々には多少なりとも楽しんで



「点訳絵本」を作っています

先日、柏ビレジ文化祭で「はなみずき」に「点訳絵本」を出品展示しました。ご覧下さった方もあったかと思えます。

この「点訳絵本」は、大阪にある「ふれあい文庫」の代表、岩田美津子さん(視覚障害者)が、26年前、幼かった息子さんに「自分で絵本を読んであげたい」という思いから作り始めたものです。現在では、文庫には約7900タイトルの「点訳絵本」があり、郵送で貸し出しをして、全国の視覚障害者の方たちに利用されています。

私達がこの「点訳絵本」に出会ったのは15年前。それ以来毎年、作った絵本を文庫に贈って、今年で約240冊になりました。チリも積もれば・・・です。

「点訳絵本」は市販の絵本に、透明なシートに文章を点訳したもの、絵の形を切り抜いたものを貼って作ってあります。絵は形が取れない場合も多く、その時は、絵の説明を点訳して貼ったりします。重なり合った絵も、どの部分を先に貼ったら感じが出せるかなど、結構頭の体操、パズルのようです。「見える人も、見えない人も一緒に楽しむ絵本」ということで、全体の雰囲気壊さないように

しつづ、「絵を伝える」ときに気を配ります。もちろん後書きや作者紹介も点訳します。

手間をかけて仕上がった絵本が全国でお役に立っているというのは、本当に嬉しいことです。

それともう一つ、この点訳絵本作りがきっかけで、毎年近隣の小学校に点字の授業をしに伺っています。こちらは、時間的に絵本を作ることは出来ませんが、50音から始まって、簡単な文章を上おりに作っていることをしています。子供達が点字を知るきっかけになればと思っています。

私達の作った「点訳絵本」は、一度「さわやか県民プラザの図書室」に置いて「ふれあい文庫」に送っています。機会がありましたら、ご覧になってみて下さい。

思いっきり表現 できる子に

人は、自然の中から感動を見出したり、想像の中から自分にしかない世界を映し出す。その感動や自分の世界を平面や立体に表現する行為は、太古から現代まで続いている。また、モノをつくり出す行為は、人生経験を問わない。よって、児童期には、この時代にはない表現が見られるのである。自分を中心として捉えている低学年、自分と対象物を客観的に見る目が育ってくる中学年、抽象・具象の違いをも感じ取れる高学年、発達段階に応じて、表現の仕方も違ってくる。

決して大人のような表現が見出し、素晴らしいのではなく、調な成長の証が見られる表現が児童画の良さなのである。



児童画は、子どもの目を通して何が見えたのか、何を伝えたいのか表現されている。その子の思いや願いがいっぱいに詰まっている。画面からはみ出るほど大きいと感じた動物や昆虫、楽しかった授業や行事、美しい植物や風景からの感動、これらを思いっきり画面に表現している。表現することを楽しんでいる。この力強い線、活気のある色彩は、

決して大人のような表現が素晴らしいのではなく、調な成長の証が見られる表現が児童画の良さなのである。

私達大人を勇気づけ、感動を与えてくれる。

さて、我が花野井小学校の子ども達は、今秋、一生懸命に絵画制作に取り組んだ。1年生は動物園遠足で心に残った動物、2年生は仲良しの昆虫、3年生はリコーダーの演奏をしているところや踊っているところ、4年生はキリン草と秋の空、5年生は揉み紙に描いた植物、6年生は遠近を捉えながら描いた校舎、大洞院や想像の城。どの子の絵も自分の思いがいっぱいに詰まっていた。

また、この秋「世界児童画展 in 花野井」を10月中旬から一カ月間本校で行った。世界の子ども達の絵画80点は新鮮な驚きを子ども達にも大人にも与えてくれた。鑑賞の場を提示することとは、より豊かな表現へとつながっていくであろう。この相乗効果に期待したい。

柏市立花野井小学校
教頭 池田真理子

水墨には雪景色がよく似合うのですが寒い雪の中での写生はちよつと...水墨画を始めてから木や花を前より注意して見るようになったと自分でも思うようになりました。一本の木を描くにも幹の肌も葉も姿もちがいます。プラタナスの葉とユリの木の葉はよく似ていますが凸と凹のように違いが、春先の辛夷やもくれんの蕾はいつせいに北の空を向いています。朝顔や藤をうっかり描くと蔓の巻き方が逆だったり、葉のつきかたの互い違いや対なのに注意したりするようになりました。これも水墨のおかげだと思っています。これからは勝負は続いていると思います。

山川 務

←2ページより続く

は大切なものかもしれません。水墨画は墨一色で描かねばなりません。桜を、新緑を、或いは燃えるような紅葉を描くにも墨の濃淡で表現することになります。私が描くと新緑なのか紅葉なのかわからなくなってしまう。よく先生には絵は己の心を映すもの、と言われます。展示会に出品されている題に「凛・寂・望・颯・悠」のような一字がよくあります。精神性の高い所以なのでしょう。又先生に写生をするようにいわれます。



和紙 ちぎり絵 の魅力

このたび、画廊のようなコミュニティルーム（はなみずき）にて行なわれたビレジ文化祭に、作品を発表できましたことを、私達サークル仲間が皆、たいへんうれしく思っております。和紙ちぎり絵は、古来から受け継がれている日本の伝統和紙をちぎって、一枚一枚貼り、一つの作品に創り上げていきます。手漉き和紙の優しい風合、豊富で繊細な色彩。このような美しい和紙を手で触れ、見ているだけでも心が癒され、私達に安らぎを与えてくれます。また、和紙をちぎることで生じる毛羽が醸し出す微妙な表情は、作品に温かさを与えてくれます。この日本が誇る素材の魅力が、そのままちぎり絵の魅力となります。その上絵具より手軽に自在に使うことができ、作者の感性を、より美しく豊かに表現してくれます。そして、仕上がった作品全体からは、画材が日本独自の工芸品である美しい和紙であることから、優美さ、柔らかさ、温もりが感じられます。



和紙ちぎり絵サークル
中林 藤子

最後に柏ビレジを中心に活動されている三つの団体の方に、活動内容等語って頂きました。皆さん本当に元気に、充実した活動をされています。そのエネルギーが柏ビレジの住民全てに届きますように。

「アイビーサロンを 知って頂きたくて」

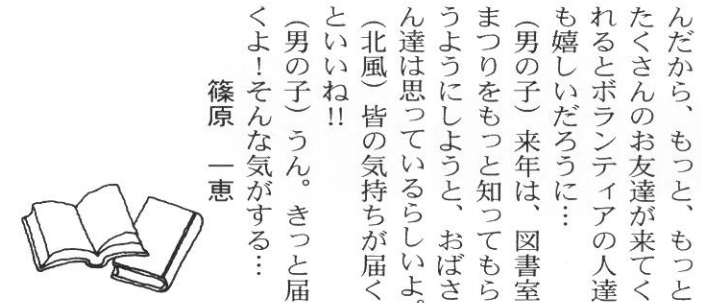
アイビーサロンが誕生して9年になります。その間ビレジニュースや回覧、ポスター等で活動の様子をお知らせしてきましたので、アイビーサロンという名前をどこかで目にされたこと、耳にされたことがありと思います。アイビーサロンは「いつでも元気に過ごしていたきたい」という趣旨で、柏市の政策の一環（おせっかい事業）として主に高齢者の方を対象に健康づくりを応援しています。毎月第三金曜日・午後1時30分から



近隣センターで、第二月曜日、第四月曜日 十二時半からお教室が開かれています。興味のある方ぜひ遊びにいらして下さい。

石田 睦子

自治会館で、お茶とお菓子をいただきながら午後のひとときを過ごしています。具体的にはどんな時間を過ごしているかといえます。今年五月にはビレジ内の手話ダンスサークルの方々に、歌詞を手話に通訳して踊る手話ダンスを披露して頂きました。六月にはビレジ在住のフルート奏者 大嶋英梨子さんのミニコンサートにうつとり。七月は柏をテーマにした歌を歌っている ひななつちゃんによりミニライブで元気をもらいました。人の



（北風）そうだね。この頃、複雑な遊びが多いけど、簡単にできるものは、皆が楽しんでるんだよ。

篠原 一恵

（男の子）うん、嬉しかったなあ。だって、ボランティアの人達手作りの素敵な紙芝居だもの。紙芝居で「ちからたろう」を見せられました。お年寄りが見やすいようにと模造紙一枚に大きな絵を描いてくれる（それがどれもとても上手！）気がつかないよ。二組は花野井小〇〇クイズ。〇×の札も子供達の手作りでした。クイズを通して花野井小の様子がよくわかりました。子供達の熱演、そして歌声に大感激。目頭をおさえるお年寄りも……。

（男の子）うん、嬉しかったなあ。だって、ボランティアの人達手作りの素敵な紙芝居だもの。紙芝居で「ちからたろう」を見せられました。お年寄りが見やすいようにと模造紙一枚に大きな絵を描いてくれる（それがどれもとても上手！）気がつかないよ。二組は花野井小〇〇クイズ。〇×の札も子供達の手作りでした。クイズを通して花野井小の様子がよくわかりました。子供達の熱演、そして歌声に大感激。目頭をおさえるお年寄りも……。

（男の子）うん、嬉しかったなあ。だって、ボランティアの人達手作りの素敵な紙芝居だもの。紙芝居で「ちからたろう」を見せられました。お年寄りが見やすいようにと模造紙一枚に大きな絵を描いてくれる（それがどれもとても上手！）気がつかないよ。二組は花野井小〇〇クイズ。〇×の札も子供達の手作りでした。クイズを通して花野井小の様子がよくわかりました。子供達の熱演、そして歌声に大感激。目頭をおさえるお年寄りも……。

（男の子）うん、嬉しかったなあ。だって、ボランティアの人達手作りの素敵な紙芝居だもの。紙芝居で「ちからたろう」を見せられました。お年寄りが見やすいようにと模造紙一枚に大きな絵を描いてくれる（それがどれもとても上手！）気がつかないよ。二組は花野井小〇〇クイズ。〇×の札も子供達の手作りでした。クイズを通して花野井小の様子がよくわかりました。子供達の熱演、そして歌声に大感激。目頭をおさえるお年寄りも……。

図書ボランティアだより

こんにちは。ぼく達は、11月10日土曜日の図書室まつりで紙芝居『きたかぜがくれたテールかけ』に出てくる北風と男の子です。



活動日 毎週木曜日 時間 10時～12時
場所 柏ビレジ近隣センター
連絡先 河野 TEL 04-7132-2808
http://www.geocities.jp/kashiwa_primula/

歌を 楽しんで

柏プリムラ・エ・コール 代表 河野玲子

こんにちは。柏プリムラ・エ・コールです。今日は、ある日のプリムラの練習風景をご紹介します。木曜日の朝9時、柏ビレジ近隣センターに発声の声が聞こえ始めます。各パート毎のヴォイストレーニングを、レッスン前の時間を使ってやっています。各パートというものは、ソプラノ・メゾソプラノ・アルトの3パートで、それぞれの声の出し方や、各人へのアドバイスを受けたりします。その後、全員揃って体操をします。固まった体をほぐし、歌うための体のウォーミングアップです。



いよいよ曲の練習ですが、今取り組んでいるのは、「中山晋平 10のメロディー」と「空の名前」（信長貴富作曲）という二つの曲集。その中から、さらに今は「鞠と殿さま」と「夕焼け」を中心に練習しています。『鞠と殿さま』は、よく知られたメロディーも「もつと大人の声で」「しっかりリズムを刻んで、遅れない」と注意を受けます。「やっっているつもり」では届かない。本当に難しいんです。『夕焼け』の方は、ゆつたりとしたメロディーの中に、「どこの国から見ても 夕焼けが 火の色 血の色に 見えることなど ありませんように」と、強いメッセージが込められている曲です。それが届けられるように、目標です。川村先生は、「歌は格闘技。全力で取り組むように」と言われます。2時間のレッスンは、終わるころには、思わぬ充実感を求めて、また次の週も皆、集まってきました。年間行事としては他に、「柏市民による合唱の集い」への参加、デイサービス施設へ歌のボランティア訪問、レクリエーションのお楽しみもあります。今年新しく4人の方が入団しました。皆さんも一緒に歌いませんか？見学はいつでも歓迎です。またプリムラのホームページもご覧下さい。プロフィールや、活動状況を写真等も載せてご紹介しています。